

令和5年度
重層的支援体制構築推進人材養成研修

2023年11月17日



大阪いずみ市民生活協同組合の概況

設立 1974年11月5日

組合員数 56万2,518人(2023年3月末現在)

総事業高 1,010.1億円(2022年度実績 2022年4月～2023年3月)

宅配事業(個人別配送・グループ配送・ペア配送)/646.7億円

店舗事業/241.7億円

夕食宅配事業/15.3億円

サービス事業/15.8億円

エネルギー・通信事業/50.5億円

出資金 162.5億円(2023年3月末現在)

職員数 正規職員625人(2023年3月末現在)

定時職員564人(2023年3月末現在)



「つながりのあるまちづくり」への参加方針

いずみ市民生協は、組合員の期待と地域からの信頼に一層応えられるよう、

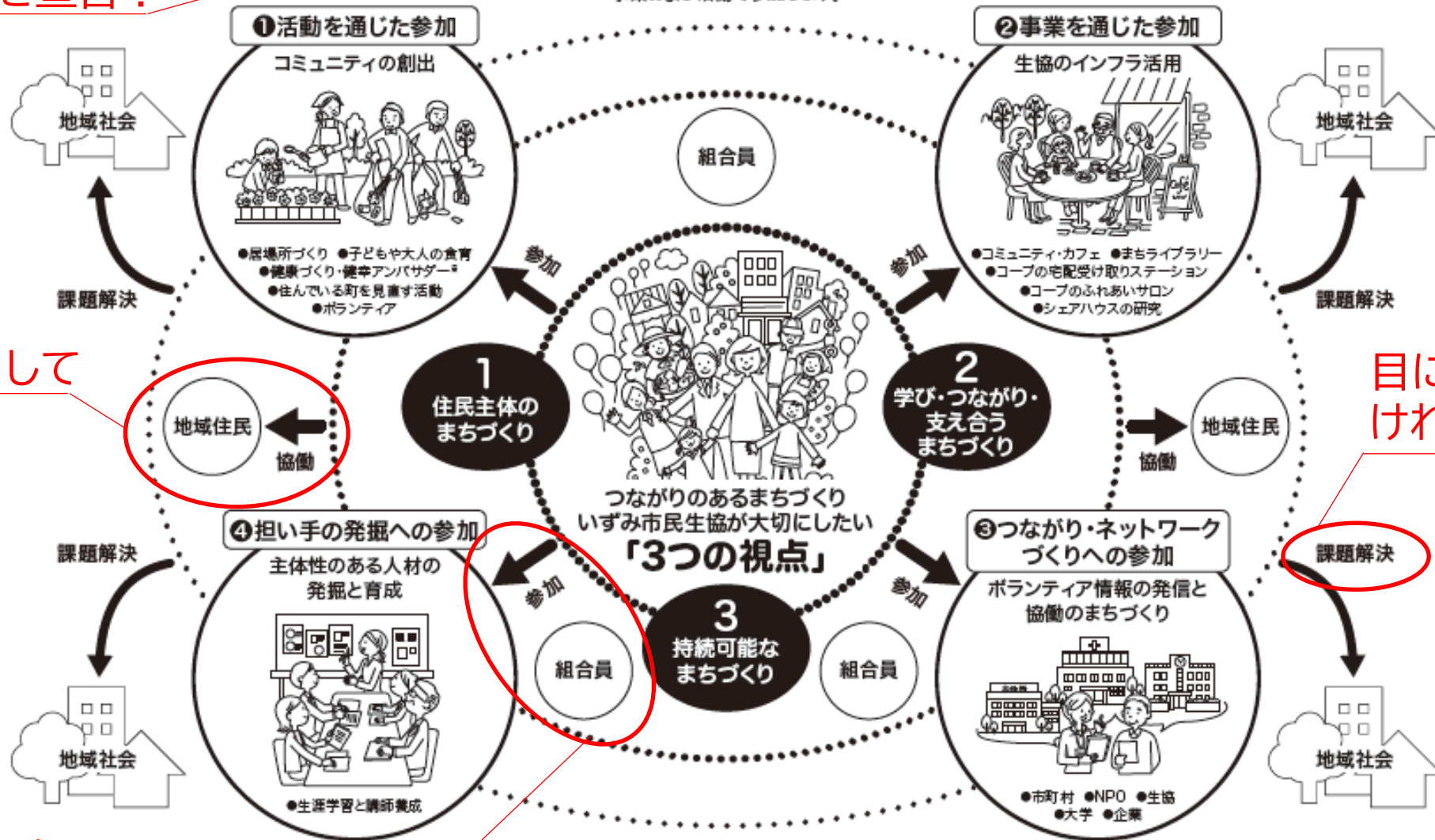
地域社会の一員としてまちづくりに総合的にかかわり、健康で安心してらせる、つながりのあるまちづくりに、事業および活動で参加します。

かかわり方を宣言！

地域住民として

目には見えないけれど何かの役に

地域に目を向けよう！



※健康アンバサダー-健康づくりに関する、地域で中心に活動する人たちのこと。

「つながりのあるまちづくり」への参加方針

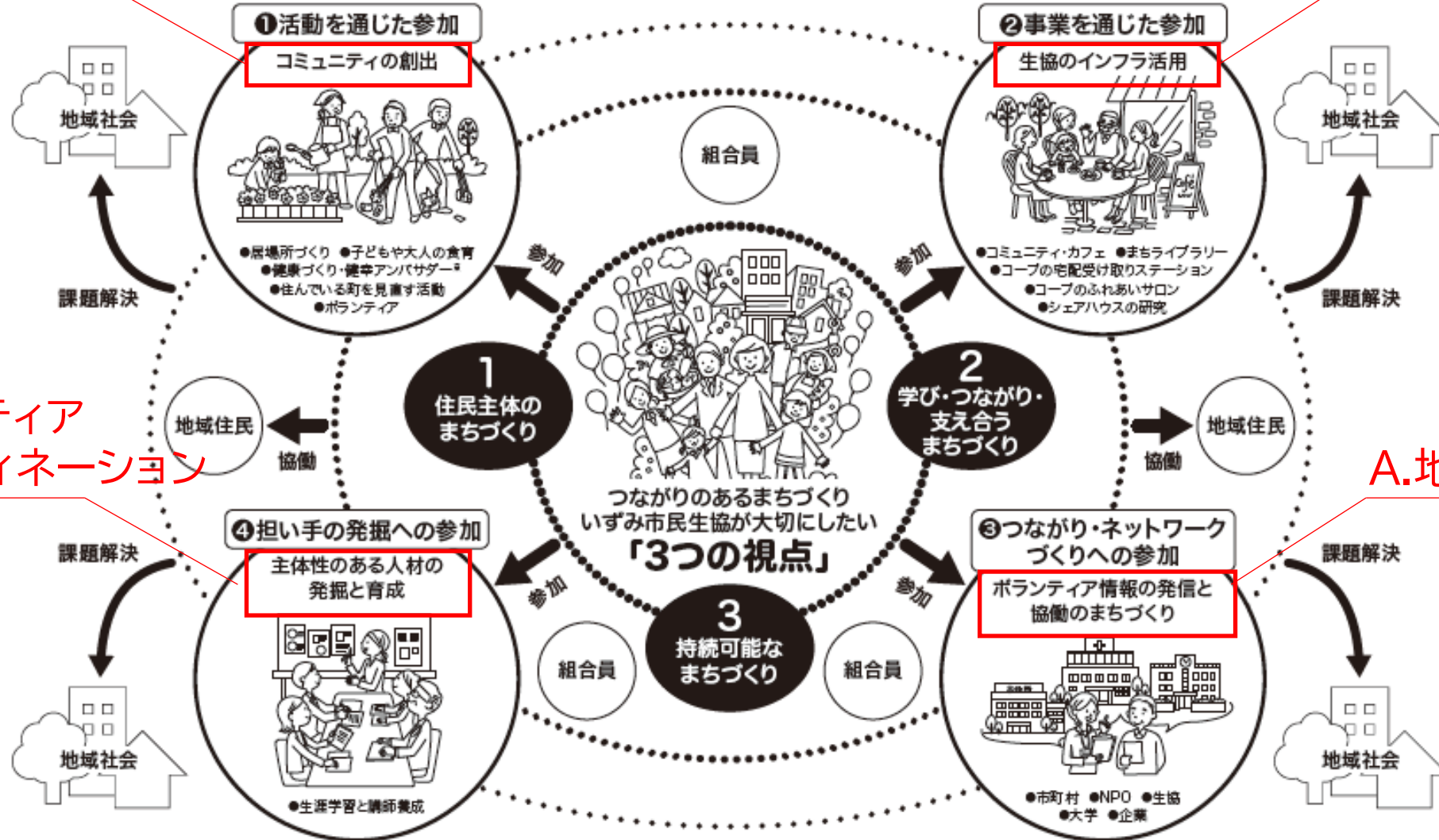
B.居場所づくり

B.居場所づくり

いずみ市民生協は、組合員の期待と地域からの信頼に一層応えられるよう、地域社会の一員としてまちづくりに総合的にかかわり、健康で安心してらせる、つながりのあるまちづくりに、事業および活動で参加します。

C.ボランティア
コーディネーション

A.地域⇔組合員



A.地域⇔組合員 ボランティア情報の発信

*地域と組合員を結びとりくみとしてボランティア情報を掲載
【組合員活動情報誌アピエ 月1回発行】

部内用

市町村からのお知らせ(告知広告) | 市町村からのお知らせに関するお問い合わせは各窓口をお願いします。
イベント申し込みダイヤルでは受付していません。

岸和田市 岸和田市社会福祉協議会からののお知らせ


～聞こえにくくなったらどうする?～
「聞こえに不安はありませんか?」

人生の中で耳が聞こえにくくなった方々には、
話し言葉を聞いて伝える「要約筆記」というコミュニケーションのサポートがあることや、
同じ立場の人と語り合える場をご紹介します。

日時 ①6月8日(木)14:00～16:00
八木市民センター【住所】岸和田市地民町339-2
②6月24日(土)14:00～16:00
岸和田市立福祉総合センター【住所】岸和田市野田町1-5-5
※内容はいずれも同じです。都合の良い日にお申し込みください。

対象者 あり(無料)
参加人数 各日先着20人
参加費 無料
対象 岸和田市在住の耳が聞こえにくくなった方、聴覚者、要約筆記に興味のある方
対象 岸和田福祉通訳スクール「はばたき」
申込方法 各日曜3日前までに、お電話もしくはFAXにて

お申し込み・お問い合わせはこちら
岸和田市社会福祉協議会
TEL:072-437-8854 FAX:072-431-1500
※お申し込み・お問い合わせ時、「本誌のアピエを見た」とお伝えください。



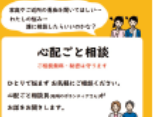
和泉市 社会福祉法人和泉市社会福祉協議会からののお知らせ

ひとりで悩まず お気軽にご相談ください
心配ごと相談

生活の中での悩みやしんどさについて、心配ごと相談員(地域のボランティアさん)が対応をお願いします。
※ご相談無料・役目は守ります。

日時 毎週火曜日(祝日除く)
13:30～16:00(受付は15:00まで)
会場 和泉市立総合福祉会館 2F 会議室
【住所】和泉市府中町4-20-4
対象者 あり(無料) ※2時間まで無料
対象 和泉市の住民
※感染症予防対策のため、来館前に必ず検温をし、
発熱などの体調不良の場合は、ご来館をお控えください。

お問い合わせはこちら
社会福祉法人和泉市社会福祉協議会
TEL:0725-43-7513
FAX:0725-41-3154
(月～金 9:45～17:15 前日、年末年始を除く)
※お問い合わせ時、
「本誌のアピエを見た」とお伝えください。



泉大津市

**認知症・介護
無料相談会を開催します**

コロナ禍で外出や友人との交流を控えていたために、
持病の悪化やフレイル(体や心、認知機能の低下)が心配な人が増えています。
その一方で、介護者・家族の負担やストレスもより大きくなっているのではないだろうか。
働く世代の介護者・家族にもご利用いただけるよう、夕方の時間帯で相談会を開催します。

日時 5月23日(火)・8月22日(火)・11月28日(火)・2024年2月27日(火)
いずれも18:00～
会場 シーパーク(泉大津市図書館)内 オープンセミナースペース、会議室
内容 ①認知症や介護に関するミニ講座(18:00～18:30)
②個別相談(事前予約)4組、各45分間
(18:00～18:45、18:45～19:30で各2組) ※当日相談も受け付けますが、限りがあります。

予約・お問い合わせはこちら
泉大津市地域福祉支援センター
TEL:0725-21-0294
※予約・お問い合わせ時、
「本誌のアピエを見た」とお伝えください。



市町村からのお知らせ(告知広告) | 市町村からのお知らせに関するお問い合わせは各窓口をお願いします。
イベント申し込みダイヤルでは受付していません。


堺市 こども食堂「横っ子」からののお知らせ

こども食堂 横っ子
ボランティア募集中

募集先:子ども食堂「横っ子」
(特定NPO法人横塚台助け合いネットワーク)
内容:①子ども食堂の調理、食材・食器の搬入、配膳、
食器洗い、テーブルセッティング、受付など
②子どもたちの見守り、遊び、宿題のお手伝いなど
場所:横塚台レストラン ※駐車場無し
(堺市南区横塚台3丁1-2・横塚台センター内)
募集人数:6人(子どもが大好きな方)
開催日時:毎月第3火曜日 15:30～19:30
持ち物:三角巾、エプロン、厨房用靴
(無ければご相談ください)
交通費など:一人当たり上限500円、食事有り
ボランティア保険は主催者側で加入

子ども食堂「横っ子」は2017年12月から始め、
2022の11月で5年目を迎えました。現在50～
60名の子どもが参加してくれています。放課後
に子どもたちの安心安全な場所として、17:30
までは宿題やゲームなど自由な時間を過ごして
います。17:30からは「おいしくて笑顔になる」
をコンセプトにして食事の提供を行っています。
「子どもを真ん中においた地域づくり」を通し
て「誰も取り残されない、こぼれにくい地域づく
り」を目指しています。一緒に子どもたちを支え
る輪を広げていきませんか?

備考:随時募集しています。
子どもたちのために特技をお持ちの方も募集して
います。現在、月1回で第3火曜日に開催していま
すが、今後開催回数を増やしたいと考えています。
申込お問い合わせ:
【団体名】子ども食堂「横っ子」
連絡先:090-8166-4393【担当】和田 まで
※お申し込み時「本誌のアピエを見た」とお伝えください。
メールアドレス:
wataya1712wada@gmail.com




堺市 子ども家庭支援センター清心寮(リーフ)からののお知らせ

子どもが好き、子どもの問題に関心がある、社会の役に立ちたい、里親のことが知りたいという方
「里親説明会」を開催します。

子どもたちは、親の深い愛情のもと、家庭で健やかに成長することが望まれます。しかし、親が病気になったり、亡くなったり、虐待などによって、生まれ
た家庭で暮らせない子どもたちがいます。そのような子どもたちを自分の家庭に迎え入れて、子育てをする役割を担っているのが「里親」です。
里親を知ることが、里親をサポートすることにつながります。話を聞いてみたい、知りたいという方も大歓迎です。

日時 5月27日(土) 10:00～12:00
場所 堺市役所本館 地下第1会議室
内容 児童養護施設職員より里親制度の説明
個別に相談(途中参加、途中退室も可能)
※ 申込は不要です。直接お越しください。

お問い合わせはこちら
子ども家庭支援センター清心寮(リーフ) <堺市里親支援機関>
〒591-8035 堺市北区東上野芝町2丁499番地
TEL:072-252-3521



B.居場所づくり 「みんなで居場所をつくるプロジェクト」

『「みんなで」つくる。ゴールはない。それが、
みんなで居場所をつくるプロジェクト』



このプロジェクトが始まった背景は？

いま、世の中では社会的孤立が問題視されています。また近年の新型コロナウイルスの影響により、その流れはあっという間に進んでいます。「誰ひとり取り残さない」そんな課題を解決する目的で生まれたのがこのプロジェクトです。

なぜサードプレイスづくりなのですか？

2019年、大阪いずみ市民生協では地域とのつながりを視野に入れた「つながりのあるまちづくりへの参加方針」を打ち出しました。それを考える過程で「地域とのつながりとは何か？」を模索していたとき、多種多様な人が集まるコミュニティづくりを知りました。

なぜ「みんなの」ではなく「みんなで」？

「みんなの」では、居場所が完成すれば、おしまいということになってしまいます。でも「みんなで」というと、居場所づくりをする過程や、その後も**人と人とのつながりが生まれ続けていく**と思っています。だからあえて「みんなで」としたのです。居場所のスタッフが「サービス提供者」で、訪れる人が「お客さん」という関係ではなく、たまたま訪れた人であっても何か役割を持てるようにし、できることや、やってみたいことを出しあっていく場所にしたい。そんな思いを込めています。

まちの リビング って？

「みんなで居場所をつくるプロジェクト」から生まれた居場所づくりのコンセプト、それが「まちのリビング」です。目指すのは、みんなが日々の暮らしの中で自然と集まってくる、まちに開かれたリビングのような場所。食を通してコミュニケーションが広がるオープンキッチン、自由な表現やまちの情報を共有できる大きな黒板、講座やワークショップなど用途に合わせてレイアウトできるイスやテーブルのある空間で、多種多様な活動やコミュニティに参加

することができます。もちろん、一人でゆったり楽しんでも大丈夫。それぞれの心地いい空間をつくり出せます。「まちのリビング」はみんなでつくるみんなの居場所。いつでも誰でも、希望すれば運営や企画に参加することができます。現在「まちのリビング」は大阪狭山市、八尾市、堺市にあって、私たちはその3ヶ所とも取材で訪れました。駅前のスーパー跡地、住宅街にあるマンションの一階、生協本部ビルの一階など、場所も形態も

様々ですが、どの場所も「みんな笑顔で楽しそう！」が第一印象でした。子どもや大人、いろんな人が集まって、それぞれが楽しそうに談笑したり、何か作業をしています。誰かが来ると「こんにちは〜」と自然に迎え入れてくれて、訪れた人もつい笑顔になってしまう。「ひとりで寂しいな」「誰かと話したい」というときも、「お菓子買いすぎた。みんなと食べたいな」というときも、もちろん「ひとりでボーッとしたいな」というときにも、気楽にフラ〜と立ち寄れるおすすめの場所です。

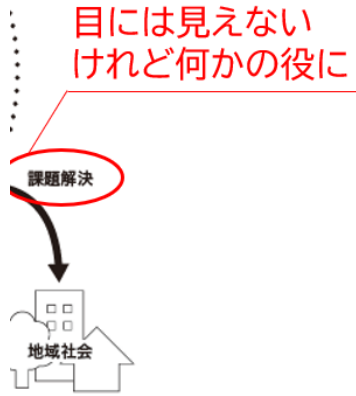
最近「屋根のある公園」とも言われることも…
(共有地、入会地)



日常を大切にしたい
多様性、寛容性を大切にしたい

大阪芸術大学の学生が制作した
「まちのリビング」コンセプトブック
より抜粋

日常を大切に 「みんな笑顔になって帰っていくこと」



特にいちばんたくさん通った「すきいま」では、ボランティアスタッフとそれ以外の来訪者の意識の差、関わる人をどう呼ぶのか、有償イベントを許すかどうか…などなど、正解のない問いについて、あーでもないこーでもないと日々話しあわれていました。でも、答えを求めながらもそれ自体を目的とせず、みんなで手探りしながら空間をつくりあげていく、その姿はまさに「輝いて」見えました。そして、それこそが「まちのリビング」なのだと思います。試行錯誤しながら一緒に話したり、考えたり、活動を楽しんだりする。空間があってもなくても、そんな関わりをつくっていくこと自体が「居場所づくり」なのではないかと考えるようになりました。

大阪芸術大学の学生が制作した
「まちのリビング」コンセプトブック
より抜粋

スタッフ通信の紹介

いいわけ編



マスク編



スタッフ通信は
こちらからどうぞ！



特集 地域の「つながる場」をつくる



すきいま外観。継続的な活動に
するため、宅配のステーションを併設し、その収益ですきいまの家賃を賄う仕組みとしている。

取材に訪れた日は、「すきいまバル(持ち寄り夕食会)」がにぎやかに開催されていた。



子どもたちが楽しめるおもちゃや絵本などを持ち寄っている。

運営ボランティアの声

上杉真弓さん(写真右)

組合員理事をしていた頃、人とのつながりが財産になりました。すきいまでも出会いがあったら素敵だと思って参加しています。さまざまな世代のいろんな人のおしゃべりって、面白いですよ。

水谷佑希子さん(写真中央)

「お店の跡地に何ができたんだろう？」と覗いたのがきっかけで、子どもと来るようになりました。居心地がいいですね。今はイラスト担当として絵を描いたり、企画のアイデアを出したりしています。

加納かおりさん(写真左)

子どもが好きなので、地域の子どもたちを見守りながら、いろいろな方とお話ができたらいいなと思っています。マスクもとれたし、これからもっと活動が広がっていくのが楽しみです。



を企画して「来てください！」というのではなく、何もしなくても、ありふれた日常を過ごせるのが、居場所なのではと」
くつろいでおしゃべりすること、それにより生まれる「緩いつながり」を大切にして、イベントも「この場

持続可能な居場所づくり

「まちのリビングすきいま」
「まちのリビングいちいち」
⇒宅配ステーション併設型

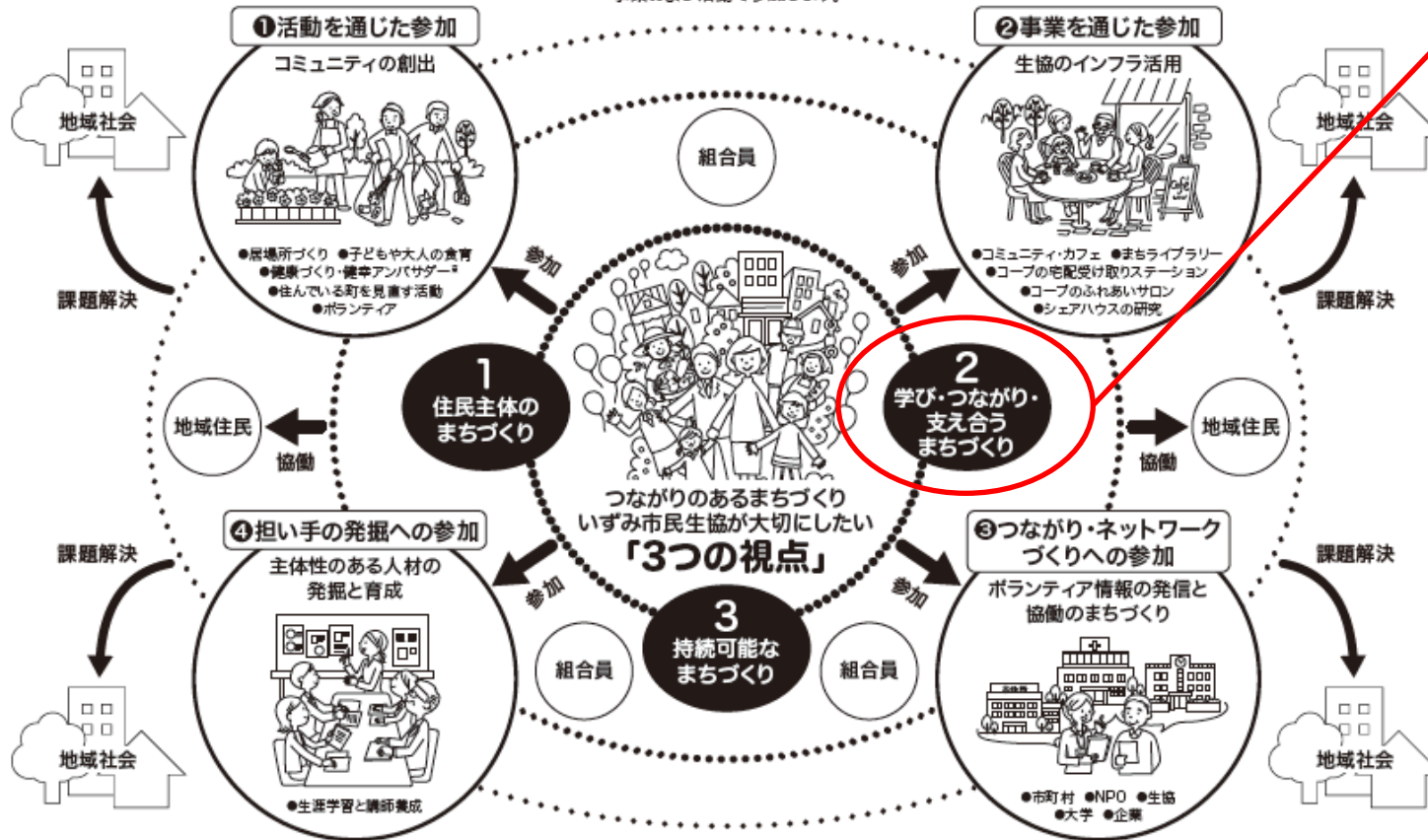
「まちのリビングここいい」
「(予定)社員住宅の1階の場所」
⇒自前物件型

いずれもお金の心配なく
居場所づくりを楽しめる
仕組みにしている

C. ボランティアコーディネーション

「つながりのあるまちづくり」への参加方針

いずみ市民生協は、組合員の期待と地域からの信頼に一層応えられるよう、地域社会の一員としてまちづくりに総合的にかかわり、健康で安心してらせる、つながりのあるまちづくりに、事業および活動で参加します。



学び

つながり

支え合う

⇒「学び」のサポートどうする？

- ・参加者をお客さんにしないって？
- ・寛容性って何？
- ・好きになれない人がいたらどうする？
- ・どうすれば運営する人が集まる？
- ・お金がないと何もできない？

⇒「学びの場」の提供

- ・市民活動をサポートする学びの場の提供
- ・コミュニティをコーディネートする気づきの場
- ・来年4月からプログラムを作れないか検討中
- ・できればワークショップ型で実施できないか

※健康アンバサダー-運営づくりに関する、正解ではなく情報発信を促すこと。